

令和4年度第1回釧路市まち・ひと・しごと創生推進会議

日時:令和4年9月1日(木) 午後3時 00 分～

場所:釧路市役所 防災庁舎5階災害対策本部室

質疑概要:

(1)第2期釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略の推進状況(推進交付金関連)等について

- 資料1 第2期釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略の全体像
- 資料2 基本目標ごとの施策の進捗状況
- 資料3 基本目標と基本的方向、具体的な施策
- 資料4 令和3年度地方創生推進交付金事業の実績

| 委員質問 | 事務局回答 |
|---|--|
| <p>・k-Biz 雇用の創出の数値をみると順調と判断できる。k-Biz へ相談した方がその後どうなっているのか、状況が分かれば知りたい。</p> | <p>・k-Biz の支援スタイルとして伴型支援をベースに、繰り返し来ている方や、継続的に来られている方もいるのが現状だ。</p> <p>・相談後に、新しい事業展開として、次のプロジェクトに進む方もいる。</p> <p>・例えば、鳥取地区にあるお米屋さんでは、精米の米ぬかをきれいに処理して、女性が食べやすいように工夫した上で、Amazonに出店したところ、かなりの売り上げになった。Amazon's チョイスに選ばれ、定期的に売れるようになった。定期配送も始めている。</p> <p>・商品には、地元食材として音別名産のキクイモパウダーを加えている。</p> |
| <p>・k-Biz の話。うなずけるところがあり、長い目で期待したいところだが、一方でまだまだ長い目でこの地域を支えるという動きは弱い気がする。</p> <p>・好事例だけが一人歩きして、一方で失敗した事例もあるかもしれない。そういったことも開示してほしい。</p> <p>・k-Bizと金融機関が連携する仕組みづくりもしていないとならないと思った。</p> | <p>・改善しなければならない部分も市の中で共有して改善していければと。</p> |

(2) デジタル田園都市国家構想総合戦略(仮称)について

○資料5 デジタル田園都市国家構想基本方針(案)の全体像

| 委員質問 | 事務局回答 |
|---|--|
| ・デジタル田園都市国家構想は特に釧路市は防災面での連携が必要、安心安全、子育ての分野でのデジタルの対応が必要だと思う。 | ・現在、役所内で DX をテーマに政策予算としての検討や課題を出したうえで会議を行うなど、今後、どういったことができるか検討を始めているところ。 |
| ・国の構想は理解できた。これは自治体ごとに大きな差が出てくるものと考えている。今後、地域の DX を進める上では技術者も必要になってくるだろう。こういった中で、市ではどのように取り組みを進めるのか。市の特色を出しながら進めて欲しい。 | ・地域の DX は、単に地域の ICT 化やデジタル化とは異なるものと考えている。その点で、DX をどう進めたらよいかという議論を行っている。市では、デジタルの力で地域課題をどのように解決できるのか、民間でこの分野に造詣が深い方に政策アドバイザーとして就任いただき、検討を進めているところ。 |
| ・まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂は、デジタル田園都市国家構想総合戦略に包含されるのか。 | ・詳細は、今後の国からの通知によるが、根本にあるのは「地方創生」の考え方になるのではないかと考えている。地域住民の皆様が住みやすくなるような取り組みを進めることに変わりはないだろう。 ・我々も懸念しているところが、デジタル田園都市国家構想基本方針の中に、総合戦略を継承する、発展させるそういった部分も反映させる必要も出てくるのではないかと考えている。 |
| ・世の中の動きの一方、デジタル難民が一定数いる。デジタルの恩恵を受けられない人に対して、デジタルの推進がどの程度影響を及ぼすか。 | ・デジタルデバインド、一極集中も実はあまり止まっていない。デジタルデバインド対応に関しては、市としても市内40か所でスマホ教室を実施することになった。国のデータ上では8割の高齢者がスマホを持っているとされているが、スマホを持っていない人への対応をどうするのか、政策アドバイザーのご意見等も聞きながら進めたい。 |
| ・デジタル田園都市と地方創生がどう結びつくのかがしっくりこないのが実際のところ。結果的に地方の都市の人口は減った。企業の効率化が進んだ結果。国は、地方の取り組みの支援が足りないの、やるなら相当の覚悟をもってやっていかないとつらいのかなと思う。K-Biz のように人材にお金をかけるような取り組みが必要だと思う。 | ・国の政策としては、スマートシティなどの取り組みもあるが、それらが釧路市に当てはまるとは限らない。適切な人材がいけないといけない。これから社会人になる、人たちができるようになるのは大切だと思う。 |

| 委員質問 | 事務局回答 |
|---|---|
| <p>・個人的には、デジタルは疎い方だが、取り組みを進める上で、デジタルを活用することでどんなように便利になるかを考えていければと思う。デジタル化が進むことで、より釧路を知ってもらうための情報の発信が重要になってくるだろう。また、若い世代に関して言えば、進学に伴いお子さんだけが釧路市を離れるパターンや、釧路市に仕事があるお父さんだけが残るパターン等があると思う。デジタル化が進むことで、わざわざ釧路市を離れずとも、高い教育を釧路市で受けられれば良いのと思う。</p> | <p>・教育分野は、GIGA スクールの取り組みが進み、教科書のデジタル化等の動きが出ている。だが、この点は高度教育というものではなく義務教育の範疇になる。委員のご意見を踏まえると、キャリア教育の考え方が重要になってくる。実際に、市では釧路青年会議所と市教育委員会が連携してキャリア教育に関する取り組みをやっている。</p> <p>・また、市からの転出に関して申し上げれば、社会増減に関する最近の傾向としては、札幌圏へ出ていく人が多い。これらの状況が進学なのか、就職によるものなのか等の細かな分析が必要であるけれども、社会増減への対応は重要になってくる。そこには、地域の教育力や学力向上も含まれる。</p> <p>・転出して外で力を付けて頂き、また地元に戻ってきてほしいという思いもあるが、一方で地域にどのように還元していただくかということも検討が必要。</p> |
| <p>・国の資料に記載されている2021年のデジタル推進員とはどのような人なのか。</p> | <p>・推進員は、自治体数で1800。IT系の人材を派遣する制度、IoTなどの分野に関連する知見のある人材で、CIO等の辞令を出している。</p> |
| <p>・デジタル田園都市国家構想、がこの会議が移行するのも方策論。釧路市の女性求職者の就労支援を実施している。潜在人材の掘り起こしの一環で、高齢な方たちに会うために、スマホ教室をやらせようと思ってきた。55歳以上の方に3回実施した。それぞれの使い方の差がある。我々の活動は道庁の事業でやらせてもらった。市は町内会単位とのことだが、それぞれの事業間で情報の共有がないともったいない。</p> <p>・子育て支援教室でもある予算内ではできないことを、道庁の事業と確認しながら進めて、担当部署だけでなく、庁内で協力体制が構築されるのが理想。</p> <p>・この会議をやっている理由は、このまちがもっと暮らしやすいようになればと思いい会議に参加している。</p> <p>・UIターンも情報を出しているが、相談に結びつかない。相談会を違うところでやったほうが良いと思う。山形の大学生、実家は釧路、Uターン就職希望だがどこからも情報が入らず、ご両親の目にも入らない。たまたまオンラインの説明会へ誘導できた。</p> <p>・様々な場面でデジタルの力が必要と感じた。</p> | <p>・市内の団体でも個別にスマホ教室をやっていることを初めて知った。情報共有もDXの活用が必要だろう。</p> <p>・実際に結びつけるには反省しないといけないと思った。</p> |